



ACACで開催中の、しまうちみかさんによる個展「ゆらゆらと火、めらめらと土」の展示風景

## 「火」と「土」テーマに制作

### ACAC しまうちみかさん個展

青森市の青森公立大学国際芸術センター青森（ACAC）で、現代美術家・しまうちみかさんの個展「ゆらゆらと火、めらめらと土」が開かれている。6月上旬から青森市に滞在し、県内の火にまつわる信仰や人々の高揚感についてのリサーチを行ったしまうちみかさん。

「火を囲む時のわいわいした感じに興味を抱き、「火」AC）で、現代美術家・しまうちみかさんの個展「ゆらゆらと火、めらめらと土」が制作を行った。しまうちみかさんは熊本県出身で、同県菊池市の旧龍門小学校アーティスト集合スペースを拠点に活動している。自身を対象として描かれるドローイングに発想を得たモチーフを彫刻作品へと展開する。重力や土の性質によって起こる頼りない造形や亀裂も利用し、合理化された社会や平均化された世の中へのアイロニーを表現している。

同展では野外で公開して行った「野焼き」により制作した新作も含め発表。ハ

ネット衣装に身を包み、ねぶたが行われぬことに肩を落とす人々を表現した作品や、「鬼」「津軽修験」など本県でのリサーチを基にした作品が多く並ぶ。「オシラサマ」のように柄の先に人形がくっついた形の作品「あそびせる」は、人の手を必要とするあり方について考えさせられる作品となっている。

しまうちみかさんは「今回のリサーチで、青森県の人たちの自然に対する畏怖を感じた。鬼やイタコの口寄せなど、目に見えないようなものを信じていることが身近にあることも印象的。消化不良になるくらい、見るべきものがある」と語った。

個展は9月12日まで。入場無料。9月4日午後2時からトークイベント「しまうちみかさんが見た青森の火のこと」を実施。定員20人、8月31日までに要予約。問い合わせはACAC（電話017・764・5200）へ。（山谷佳澄）